

## ミチバタガラシ (道端辛子)

名前の意味：道端に生えるイヌガラシの意味。イヌガラシは、カラシナに似て辛くないから、イヌと付けられた。イヌという言葉は、似ているけれども劣るものにつける。ミチバタガラシでは「イヌ」は省略されている。

分類：双子葉類、アブラナ科、イヌガラシ属

(アブラナ科の栽培植物：ダイコン、キャベツ、カブ、ワサビ)

好きな場所：日当たりのよい道端

分布：本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた (自生)

特徴：花弁が退化している。実はまっすぐに伸び、曲がらない。

種子の運ばれかた：さやがはじけて、種子が飛ぶ

花弁の数：離弁、4枚 (萼)

花の時期：5—9月

食べ方：食べられるけれどもおいしくない

見分け方：イヌガラシは花弁があって、実が曲がる。スカシタゴボウは、花弁があって、実がバナナ形

み  
見つけやすさ ★★★★

み わ  
見分けやすさ ★★★★

そ う ご う な ん い ど  
総合難易度 ★★★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)